

長期ステロイド使用後の顔面腫脹と全身症状を経て卒業式に参加した成人アトピーの経過 (23 歳 女性)

症例 ID：001-20-TYu | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

物心ついた頃からアトピーがあり、長年ステロイド治療を受けていました。高校・大学受験期には首と顔の黒ずみが進み、外用薬が効きにくくなりました。

大学1年の5月に松本医院を受診しました。初診時のIgEは37～38でした。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	幼少期からステロイド外用薬を長期使用しました。製品の詳細は不明です。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	幼少期から大学入学頃まで長期に使用しました。
中止時期	松本医院での治療開始時期です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
大学1年5月	治療開始	煎じ薬などによる治療を開始しました。
同年8～9月	症状拡大	顔が赤く大きく腫れ、倦怠感が強い状態で通学を続けました。
治療2年目	ピーク	全身の乾燥、頸部の肥厚、強いかゆみと浸出液、高熱がみられました。IgEは300を超えました。
治療3～4年目	検査値変化	IgEは600、900へ上昇した後、皮膚状態が改善に向かいました。
大学3年後半	生活変化	化粧ができるようになりました。
卒業時	社会生活	振袖で卒業式に参加しました。
治療5年目	経過中	首のかゆみは残るものの、外見上はほとんど気にならない状態となりました。IgEは131まで低下しました。

4. ピーク時期

ピークは治療2年目、顔面腫脹、全身の強いかゆみ、頸部の浸出液、高熱が重なった時期です。

5. 困りごと

- 強い倦怠感と外見上の変化がある中で大学への通学を続けました。
- 電車内や学校で人目が気になる時期がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。

時期	総IgE
初診時	37～38
治療2年目	300超
治療3年目	600
治療4年目	900
その後	131

7. 経過のまとめ

治療を続け、大学3年後半には化粧が可能となり、卒業式には振袖で参加しました。

治療5年目には首のかゆみを残しながらも、周囲から気にならないと言われる状態となりました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。